

# 久留米市地場企業景況調査レポート(平成22年7月～9月期調査分)

## ＜調査目的＞

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

## ＜調査対象＞

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

## ＜調査要領＞

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

## ＜DI値とは＞

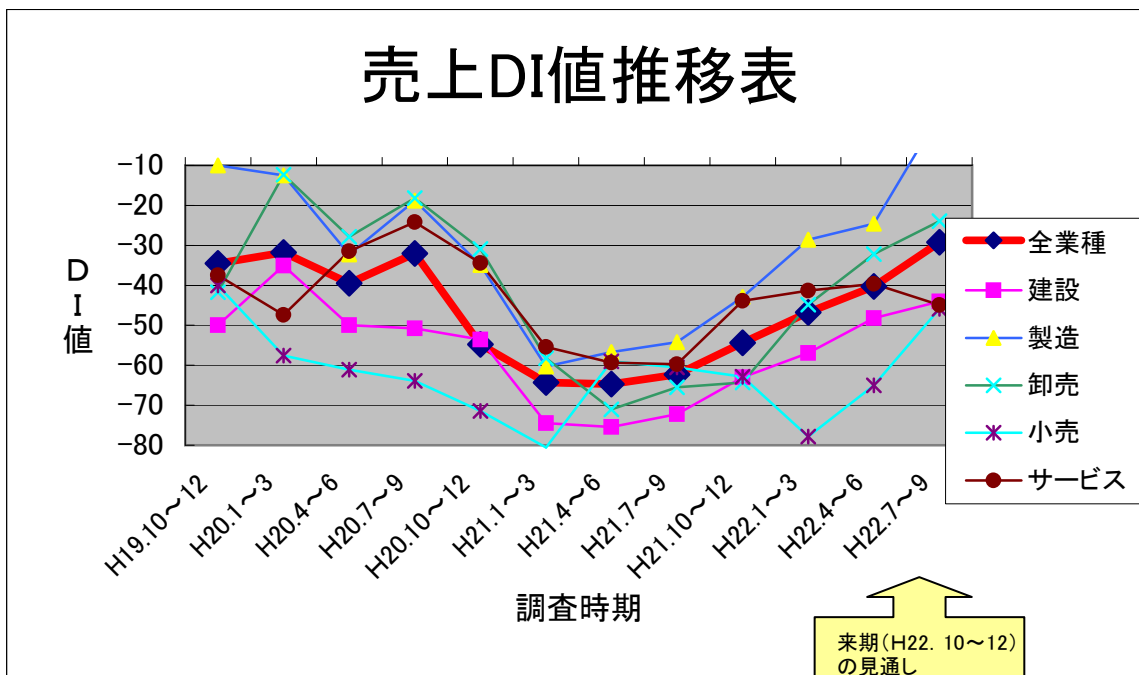
DI(ディーアイ。Diffusion Index: 景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

## ＜平成22年7月～9月期調査分回収結果＞

業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	275	45.8%
建設業	120	51	42.5%
製造業	120	69	57.5%
卸売業	120	67	55.8%
小売業	120	38	31.7%
サービス業	120	50	41.7%

## 売上DI値推移表

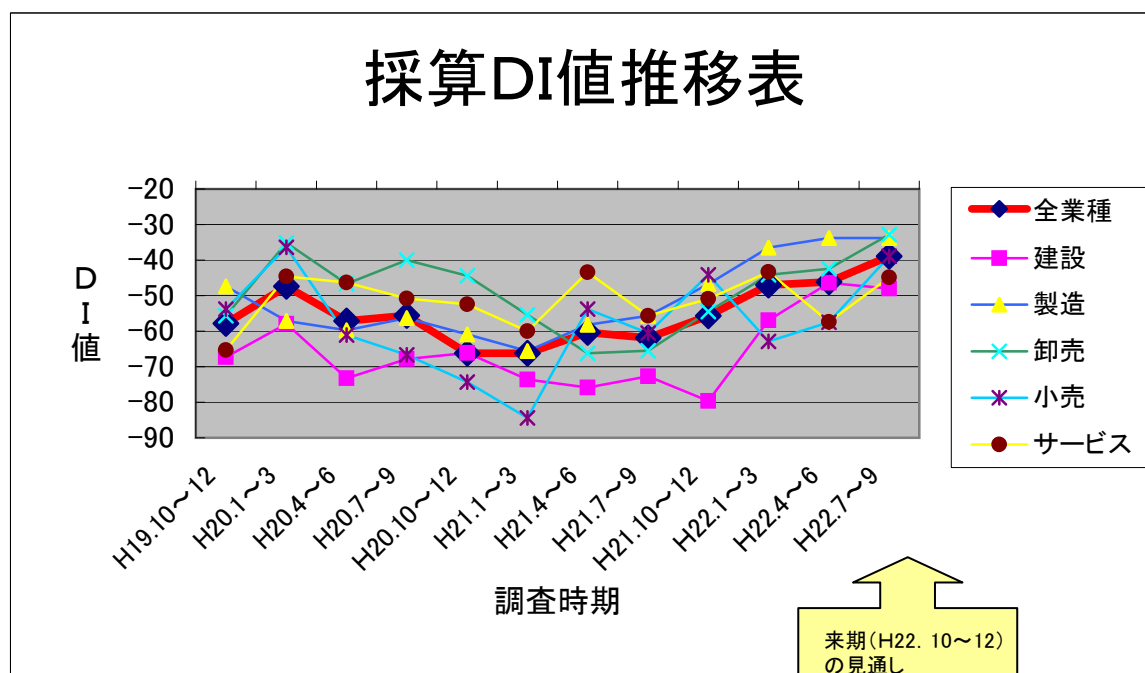


今期(H22. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「売上面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は63社(前期比12社増)、「減少した」と回答した企業は142社(前期比17社減)、「横ばいである」と答えた企業は66社(前期比8社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は五期連続で縮小して▲29. 2となり、前期比で11. 1P好転した。

業種別に見ると、建設業▲44. 4(前期比3. 8P好転)、製造業2. 9(前期比21.7P好転)、卸売業▲23. 9(前期比8. 3P好転)、小売業▲45. 9(前期比19. 1P好転)、サービス業▲44. 9(前期比5. 3P悪化)となった。

来期(H22. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲35. 0と5. 8P悪化する見込み。

## 採算DI値推移表

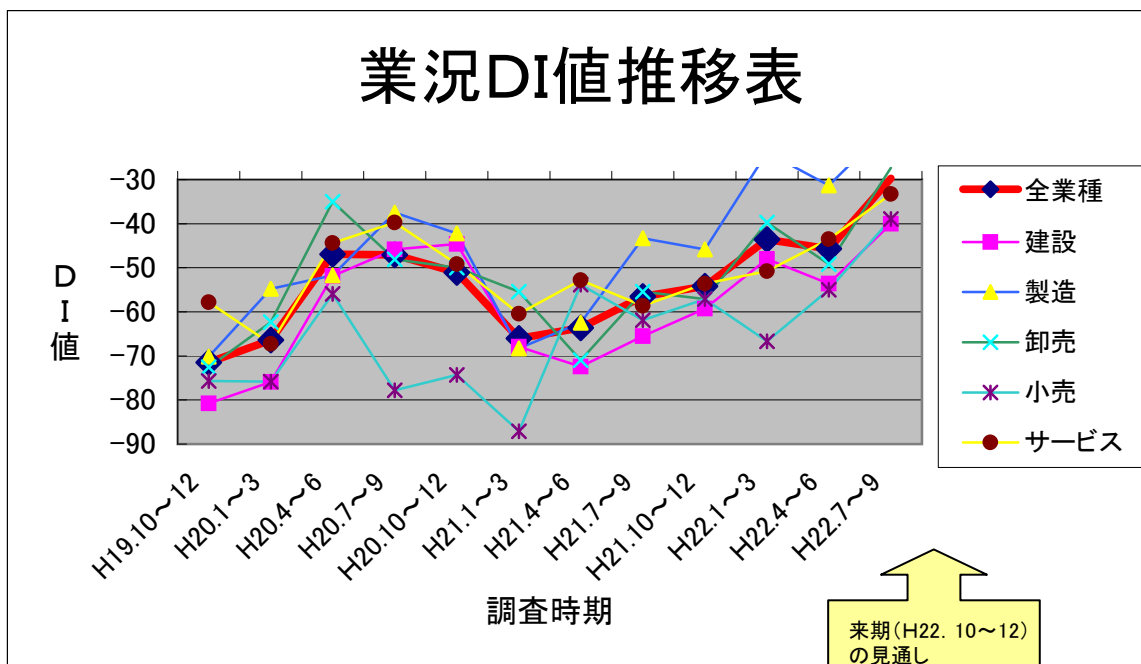


今期(H22. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「採算面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は35社(前期比7社増)、「悪化した」と回答した企業は140社(前期比11社減)、「横ばいである」と答えた企業は95社(前期比7社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は五期ぶりに縮小して▲38. 9となり、前期比で7. 2P好転した。

業種別に見ると、建設業▲48. 0(前期比1. 6P悪化)、製造業▲33. 8(前期同数)、卸売業▲32. 8(前期比9. 6P好転)、小売業▲38. 9(前期比18. 6P好転)、サービス業▲44. 9(前期比12. 5P好転)となった。

来期(H22. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲39. 9と、1. 0P悪化する見込み。

## 業況DI値推移表

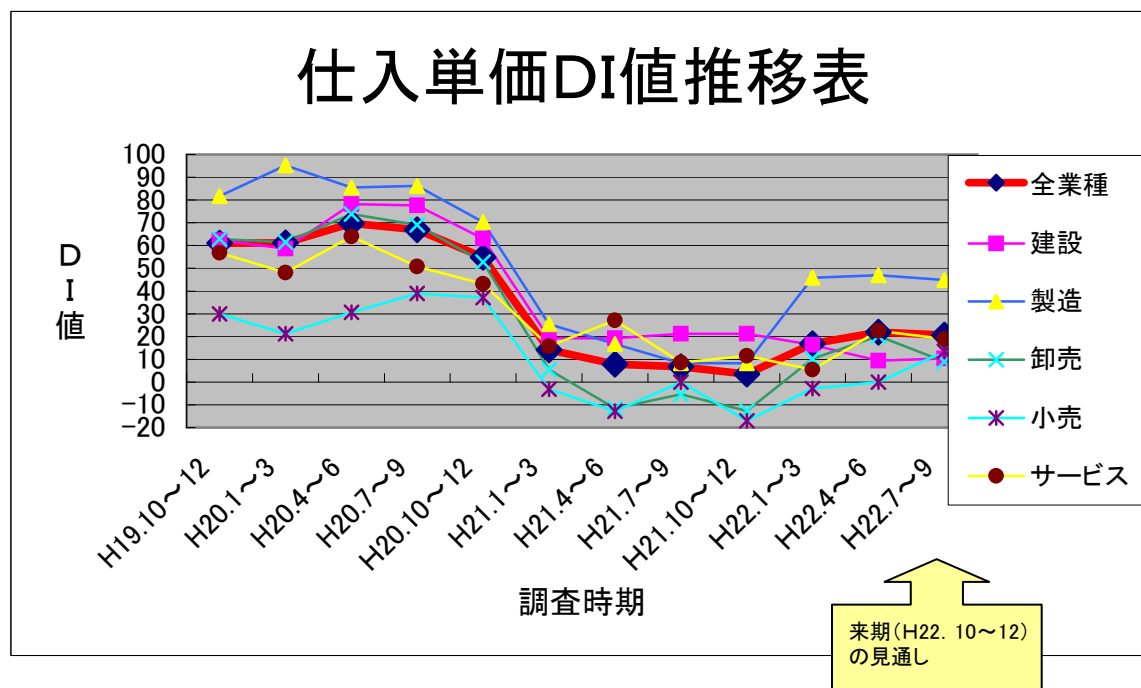


今期(H22. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「業況面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は37社(前期比8社増)、「悪化した」と回答した企業は117社(前期比33減)、「横ばいである」と答えた企業は115社(前期比29社増)であった。DI値を見ると、▲29. 7となり、前期比で16. 0P好転した。

業種別に見ると、建設業▲40. 0(前期比13. 6P好転)、製造業▲17. 4(前期比13. 9P好転)、卸売業▲27. 3(前期比21. 9P好転)、小売業▲38. 9(前期比16. 1P好転)、サービス業▲33. 3(前期比10. 2P好転)となった。

来期(H22. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲36. 3と、6. 6P悪化する見込み。

## 仕入単価DI値推移表

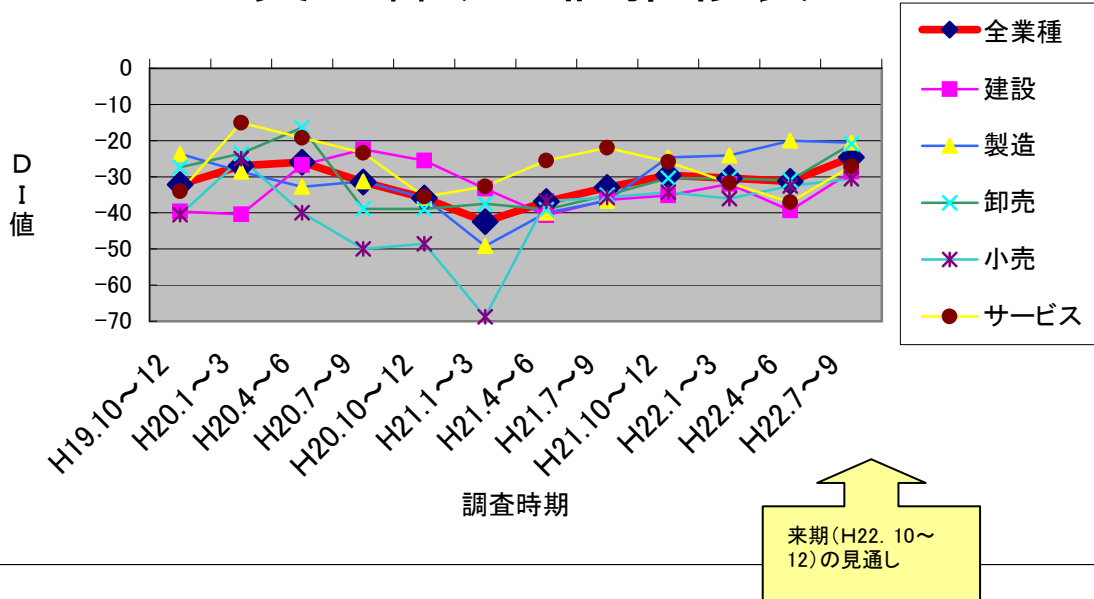


今期(H22. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「仕入単価面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は81社(前期比5社減)、「低下した」と回答した企業は27社(前期比3減)、「横ばいである」と答えた企業は153社(前期比13社増)であった。DI値を見ると、20. 7となり、前期比で1. 2P好転した。

業種別に見ると、建設業10. 4(前期比1. 0P悪化)、製造業44. 8(前期比2. 1P好転)、卸売業9. 0(前期比11. 3P好転)、小売業13. 5(前期比13. 5P悪化)、サービス業19. 0(前期比3. 5P好転)となった。

来期(H22. 10~12)の見通しでは全業種DI値は14. 7と、6. 0P好転する見込み。

## 資金繰りDI値推移表

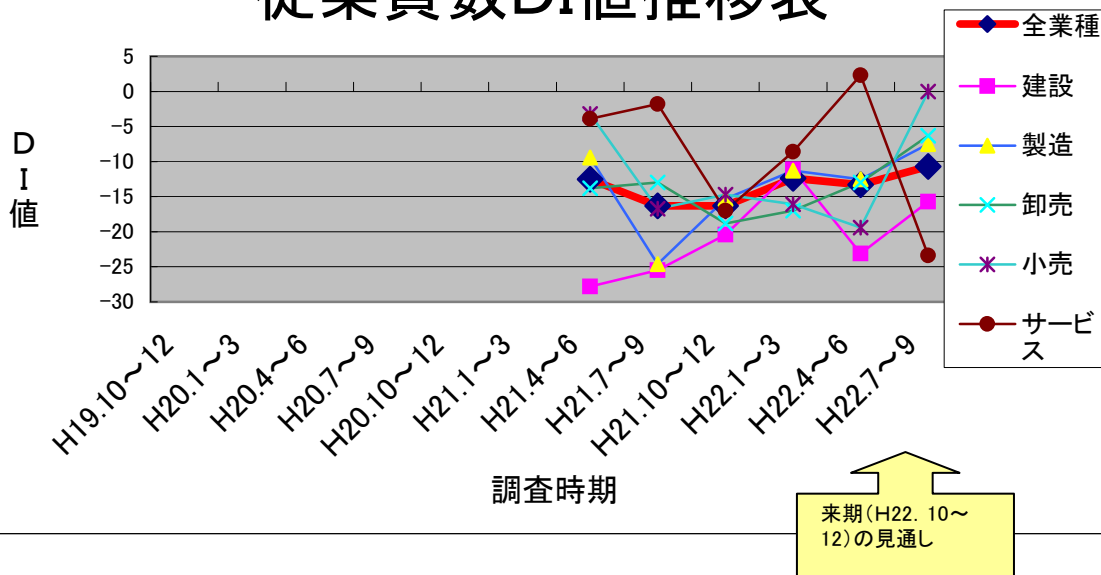


今期(H22. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「資金繰り面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は16社(前期同数)、「悪化した」と回答した企業は82社(前期比17社減)、「横ばいである」と答えた企業は170社(前期比20社増)であった。DI値を見ると▲24. 6となり、前期比で6. 7P好転した。

業種別に見ると、建設業▲28. 6(前期比10. 7P好転)、製造業▲20. 6(前期比0. 6P悪化)、卸売業▲20. 9(前期比10. 1P好転)、小売業▲30. 6(前期比1. 9P好転)、サービス業▲27. 1(前期比9. 9P好転)となった。

来期(H22. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲28. 8と、4. 2P悪化する見込み。

## 従業員数DI値推移表

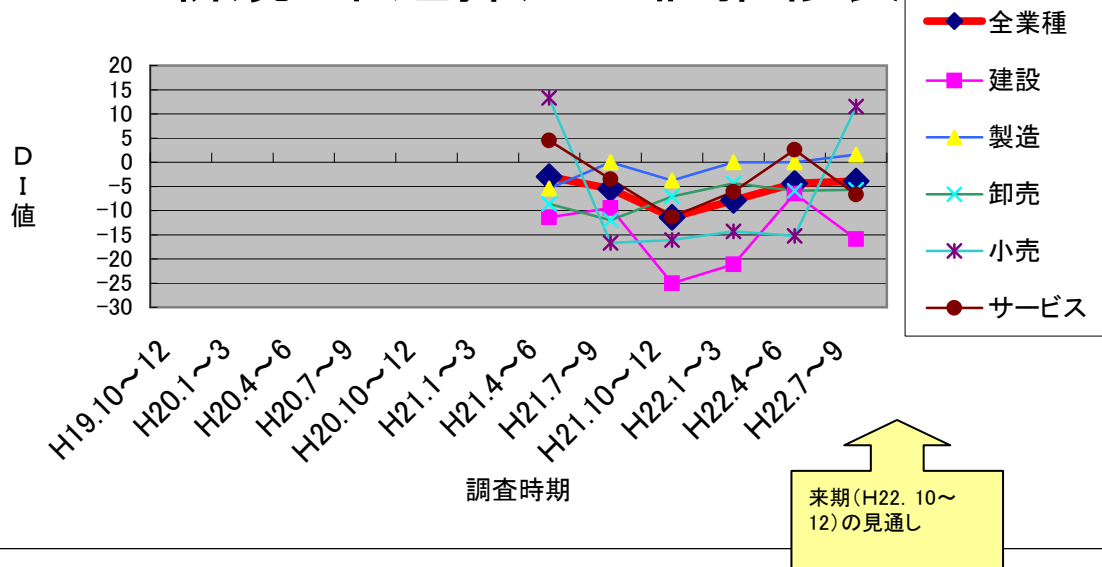


今期(H22. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「従業員数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は21社、「減少した」と回答した企業は49社、「横ばいである」と答えた企業は192社であった。DI値は▲10. 7となった。

業種別に見ると、建設業▲15. 7、製造業▲7. 5、卸売業▲6. 3、小売業0、サービス業▲23. 4となった。

来期(H22. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲8. 9となる見込み。業種別に見ると、建設業▲9. 8、製造業▲13. 4、卸売業▲1. 7、小売業▲5. 9、サービス業▲13. 0となる見込み。

## 新規・中途採用DI値推移表

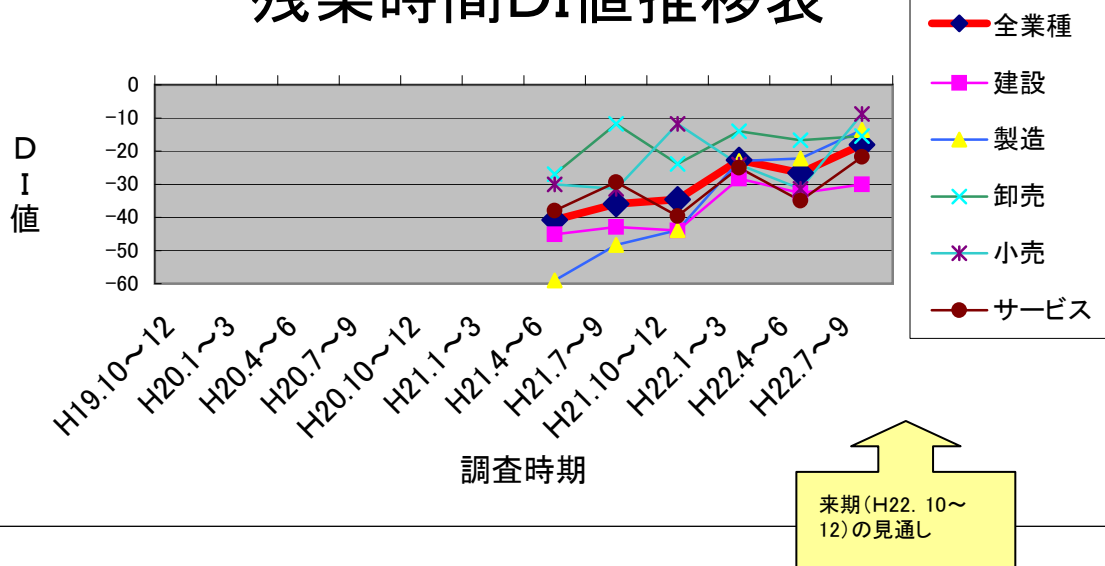


今期(H22. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「新規・中途採用面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は23社、「減少した」と回答した企業は32社、「横ばいである」と答えた企業は174社であった。DI値は、▲3. 9となった。

業種別に見ると、建設業▲15. 9、製造業1. 6、卸売業▲5. 7、小売業▲11. 5、サービス業6. 7となった。

来期(H22. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲3. 1となる見込み。業種別に見ると、建設業▲15. 6、製造業▲3. 3、卸売業9. 6、小売業7. 4、サービス業▲11. 4となる見込み。

## 残業時間DI値推移表

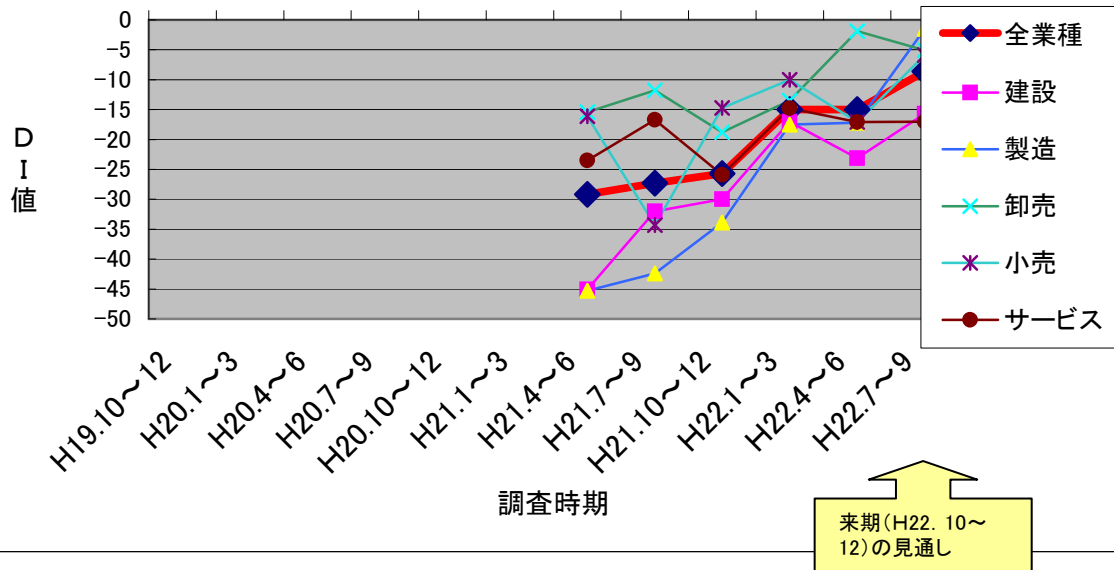


今期(H22. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「残業時間面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は21社、「減少した」と回答した企業は67社、「横ばいである」と答えた企業は166社であった。DI値は▲18. 1となった。

業種別に見ると、建設業▲30. 0、製造業▲13. 6、卸売業▲15. 5、小売業▲8. 8、サービス業▲21. 7となった。

来期(H22. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲16. 3となる見込み。業種別に見ると、建設業▲26. 0、製造業▲18. 2、卸売業▲10. 5、小売業▲11. 8、サービス業▲13. 3となる見込み。

## 労働時間・日数DI値推移表

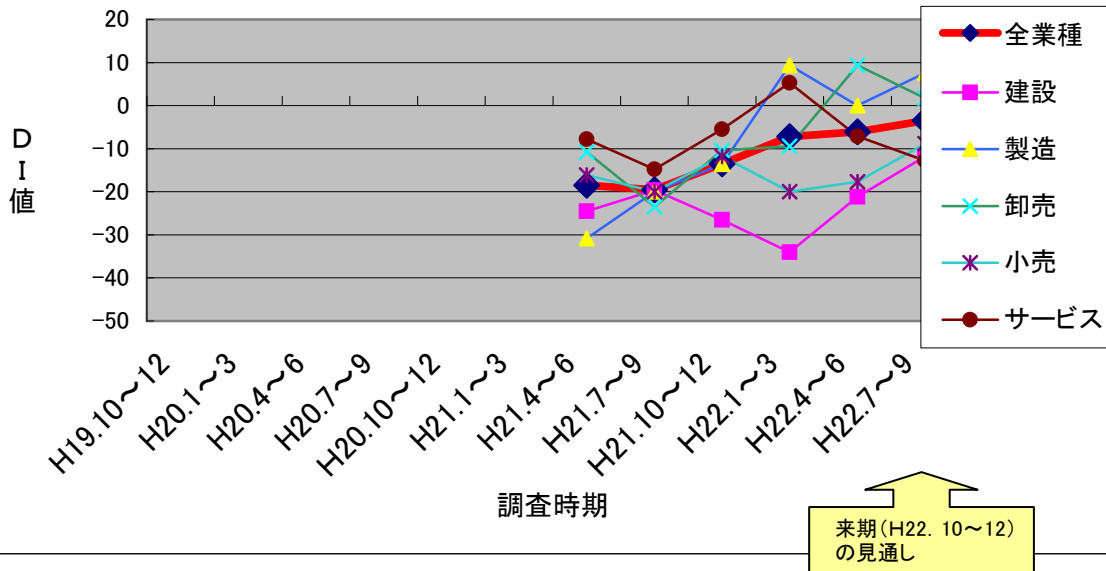


今期(H22. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「労働時間・日数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は17社、「減少した」と回答した企業は39社、「横ばいである」と答えた企業は201社であった。DI値は▲8.6となった。

業種別に見ると、建設業▲15.7、製造業▲1.5、卸売業▲5.1、小売業▲5.9、サービス業▲17.0となった。

来期(H22. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲8.6となる見込み。業種別に見ると、建設業▲15.7、製造業▲9.1、卸売業▲1.7、小売業▲5.9、サービス業▲10.9となる見込み。

## 賃金DI値推移表

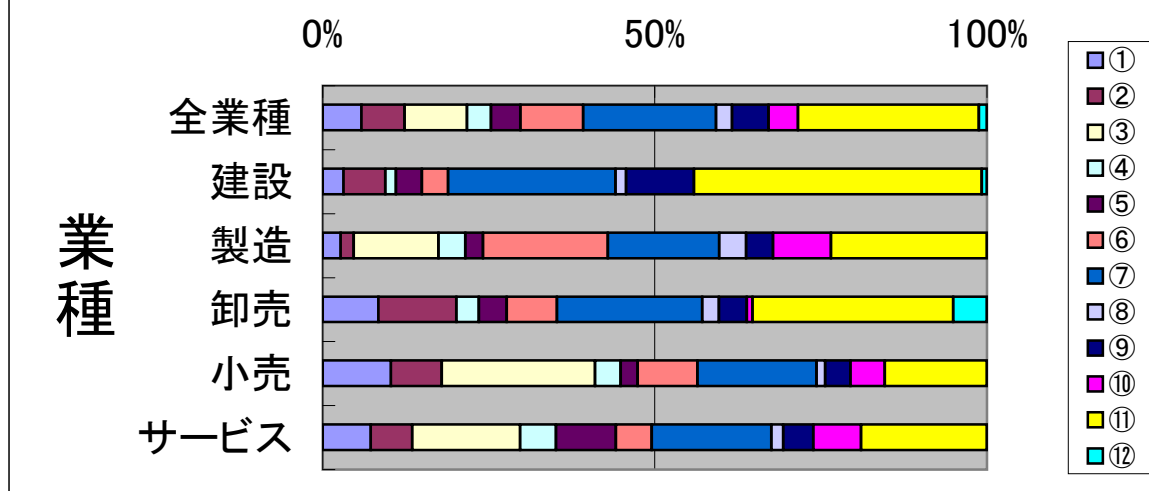


今期(H22. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「賃金面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は37社、「減少した」と回答した企業は46社、「横ばいである」と答えた企業は175社であった。DI値は▲3.5となった。

業種別のDI値では、建設業▲11.8、製造業7.6、卸売業1.7、小売業▲8.8、サービス業▲12.8となった。

来期(H22. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲3.1となる見込み。業種別に見ると、建設業▲13.7、製造業1.5、卸売業3.4、小売業▲11.8、サービス業0となる見込み。

## 経営上の問題点(複数回答可)



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他  
 今期(H22. 4~6)の経営上の悩みとしては、「需要の停滞(24. 9%)」「販売価格の低下・上昇難(20. 0%)」を指摘する声が多く寄せられている。  
 特に、「需要の停滞」は建設業(46. 8%)、製造業(25. 0%)、卸売業(35. 6%)、小売業(16. 3%)サービス業(24. 0%)と全業種で意見が集中した。

### <事業所から寄せられた主なコメント>

#### 【建設業】

再雇用制度により新規・中途採用が出来ず、従業員の高齢化が進んでいる。  
 請負金額が低下している状況で、設備の向上により材料費等にコストがかかり、利益が出ない。  
 全般的に工事が減少しており、経営が厳しい。

#### 【製造業】

業者からの値下げ要求が年々強くなってきている。  
 円安への対策、環境に配慮した取り組みが必要。  
 毎月売上の波が激しいので、平準化対策が急務。

#### 【卸売業】

メーカーや卸問屋が直接お客様との取引をして顧客が奪われている。  
 世界的異常気象による原材料高騰に伴う仕込商品の単価上昇と、大型小売店の安売り競争による売価の低下による収益悪化。  
 鋼材価格の上昇により、仕入単価は上昇するも売単価に転換できず収益悪化が進むと思われる。

#### 【小売業】

需要と消費環境が今後も続くか疑問。  
 来客数の減少により収益が見込めない。

#### 【サービス業】

お客の来店サイクル半減に伴い、売上も半減している。  
 需要を拡大するようさまざまなサービスの提供や、経費を抑え経常利益を確保している。  
 大手企業の海外移転の影響か、物流の量が減少している。